

6/16(火)、「チャペル・アワー」

聖書箇所:新約聖書、コリントの信徒への手紙一 12章 1-11節

奨励題:「カリスマっ♪」

本学宗教主任の臂先生は、先日ふとしたことで耳にした、アイドルグループの歌に注目しました。カリスマ(Charisma)とは、近年では人々の心を強く惹きつける特別な魅力や影響力、またはその資質を持つ人を指す言葉として使われます。原語たるギリシア語の、そもその意味から聖書的な解説をしてくださいました。新短の学生一人ひとりにの心に響くチャペルになりました。

【私はアイドルや流行の音楽に強い興味がある方ではありません。しかし先日、Snow Man の『カリスマックス』という曲を耳にし、「才能解き放つ」と歌うその姿に、「これは聖書が語る言葉そのものだ!」と衝撃を受けました。今回はこの現代の言葉を、聖書からひも解いてみたいと思います。

私たちは普段、カリスマという言葉に「特別な天才の才能」という意味で使い、「自分には無関係だ」と思いがちです。しかし、聖書における「カリスマ」の本来の意味は賜物です、「神様があなたを世に送り出すときに、無償で贈ってくださったギフト(プレゼント)」なのです。

2000年前のコリントの教会でも、人々は周囲と自分の能力を比較しギスギスしていました。伝道者パウロはそんな彼らに、「カリスマには様々あるが、すべて同じ神から与えられたものだ」と語りました。そこには優劣などありません。聖書は、優秀な人だけでなく「一人ひとりに」すでにプレゼントの箱が配られていると宣言しています。

聖書が語るカリスマは、短大生活にもあふれています。グループワークで方針を示すリーダーシップや、コツコツと資料を調べる誠実さ。「大丈夫だよ!」と仲間を励ます明るさや、悩む友人にそっと寄り添う優しさなど、すべてが立派なカリスマです。目立つことだけが才能ではありません。他人の箱を羨むのではなく、「すでに自分の中にあるプレゼントを信じる」ことが大切なのです。

一人ひとりが違ったカリスマを持つのは、「互いに補完し助け合うため」と聖書は語ります。それぞれに与えられた「カリスマ」はひとりぼっちでいるのではなく、社会に出て行った時に発揮される力です。自分の小ささにおびえるのではなく、神さまから与えられたカリスマを思い、この先も歩んでいけたらと思います。】